



小金井駅 蒸気機関車の動輪

C57蒸気機関車の動輪が保存されています。C5738は、昭和13年製造。北陸線・室蘭線などを走りました。同型の動輪は大田原市「ぼっぼ公園」や兵庫県三田市「はじかみ池公園」にも保管されているそうです。
 小金井駅は明治26年(1893)開業、昭和41年(1966)小山電車区開設と、小金井駅がある旧国分寺町は鉄道開通とともに発展した町でもあります。この動輪は、鉄道との深い関わりを示すモニュメントでもあるわけです。



小金井一里塚

22 小金井一里塚
 日本橋から22里の一里塚。明治初年の道路改修工事の際、旧日光街道の直ぐ東側に国道4号が開通したため、取り残される形で旧道をはさんみ左右両側の塚が様子をとどめている。
 国指定の史跡となっており、江戸時代の一里塚の様子がよくわかる。発掘調査が行われ、塚と塚の間から江戸時代から明治時代の砂利敷きの道路跡が見つかった。
 西側の塚には榎、東側には榎と櫟(くぬぎ)が生えているが、日光・奥州・甲州道中宿村大概帳には「木立、左杉、右松」とある。現在は史跡公園として整備されている。



小金井駅交差点



県道44号線の交差点

日光街道の旧道
 小山市と下野市との境界付近から小金井一里塚のすぐ南まで、現在の国道4号線の西側約30~200m付近を南北900mにわたって残っている小道が日光街道の旧道。明治16年(1883)から翌年にかけて行われた道路改修によってすぐ東側に新道(陸羽街道)が開通した。

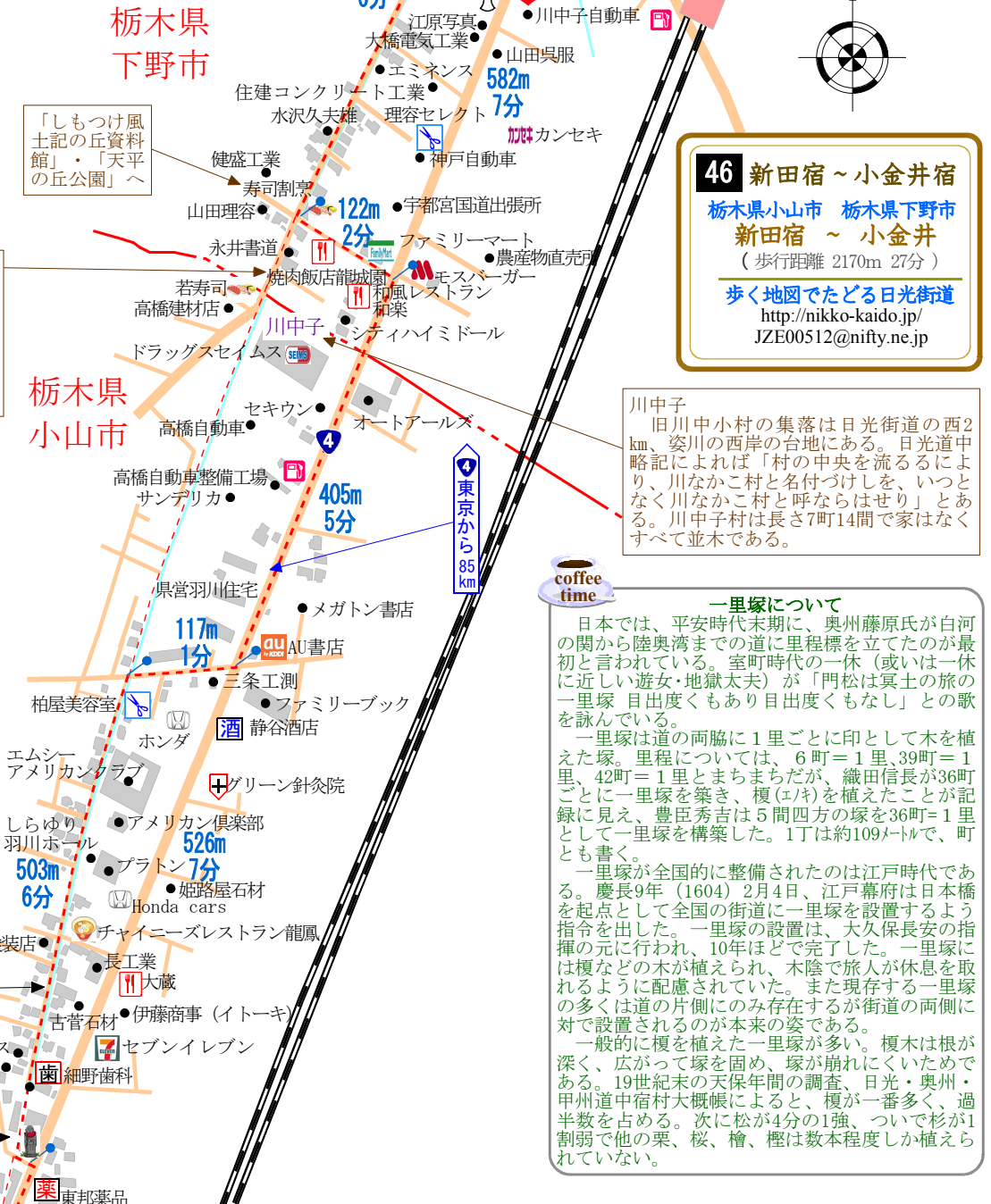


しまつけ風土記の丘へ行く交差点



日本橋から85km

coffee time
天平文化を今に伝える しもつけ風土記の丘
 今から約1300年前の天平年間(729~749)に聖武天皇の発願によって建てられた下野国分尼寺がある。周辺には県立しもつけ風土記の丘資料館や県埋蔵文化財センター、民俗資料館などが整備された。
 この下野国分尼寺に近い南方から下野薬師寺方面に向かって、古代の官道(幹線道路)である東山道(とうさんどう)が延びていた。



46 新田宿 ~ 小金井宿
 栃木県小山市 栃木県下野市
新田宿 ~ 小金井
 (歩行距離 2170m 27分)
<http://nikko-kaido.jp/>
JZE00512@nifty.ne.jp

川中子
 旧川中小村の集落は日光街道の西2km、姿川の西岸の台地にある。日光道中略記によれば「村の中央を流るるにより、川なかこ村と名付づけしを、いつとなく川なかこ村と呼んばせり」とある。川中子村は長さ7町14間で家はなくすべて並木である。

coffee time
一里塚について
 日本では、平安時代末期に、奥州藤原氏が白河の関から陸奥湾までの道に里程標を立てたのが最初と言われている。室町時代の一体(或いは一体に近い遊女・地獄太夫)が「門松は冥土の旅の一里塚 目出度くもあり目出度くもなし」との歌を詠んでいる。
 一里塚は道の両脇に1里ごとに印として木を植えた塚。里程については、6町=1里、39町=1里、42町=1里とまちまちだが、織田信長が36町ごとに一里塚を築き、榎(エノキ)を植えたことが記録に見え、豊田秀吉は5間四方の塚を36町=1里として一里塚を構築した。1丁は約109メートルで、町とも書く。
 一里塚が全国的に整備されたのは江戸時代である。慶長9年(1604)2月4日、江戸幕府は日本橋を起点として全国の街道に一里塚を設置するよう指令を出した。一里塚の設置は、大久保長安の指揮の元に行われ、10年ほどで完了した。一里塚には榎などの木が植えられ、木陰で旅人が休息を取れるように配慮されていた。また現存する一里塚の多くは道の片側にのみ存在するが街道の両側に対して設置されるのが本来の姿である。
 一般的に榎を植えた一里塚が多い。榎は根が深く、広がって塚を固め、塚が崩れにくいからである。19世紀末の天保年間の調査、日光・奥州・甲州道中宿村大概帳によると、榎が一番多く、過半数を占める。次に松が4分の1強、ついで杉が1割弱で他の栗、桜、檜、樺は数本程度しか植えていない。

旧日光街道跡
 上野モーターズ
 羽川 太田製作所
 新田宿北口の石仏群
 ドーイチ
 東邦薬品